

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第1区分

【発行日】平成19年1月18日(2007.1.18)

【公表番号】特表2002-532067(P2002-532067A)

【公表日】平成14年10月2日(2002.10.2)

【出願番号】特願2000-584053(P2000-584053)

【国際特許分類】

**C 1 2 N 15/09 (2006.01)**

**C 1 2 N 9/22 (2006.01)**

**A 6 1 K 38/00 (2006.01)**

A 6 1 P 31/18 (2006.01)

A 6 1 P 35/00 (2006.01)

A 6 1 P 43/00 (2006.01)

【F I】

C 1 2 N 15/00 Z N A A

C 1 2 N 9/22

A 6 1 K 37/02

A 6 1 P 31/18

A 6 1 P 35/00

A 6 1 P 43/00 1 1 1

【手続補正書】

【提出日】平成18年11月21日(2006.11.21)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】 改変された細胞傷害性リボヌクレアーゼであって、

R N a s e Aスーパーファミリーのリボヌクレアーゼについてのアミノ酸配列及びウシ  
 臍臓R N a s e Aのアミノ酸残基85～94の領域に機能的に等価なループ領域において  
 該リボヌクレアーゼのアミノ酸に共有結合的に結合した立体障害部分を含み、

該立体障害部分による立体障害による、リボヌクレアーゼインヒビターに対して低下し  
 た結合親和性を有し、リボ核酸分解活性を保持していることを特徴とするリボヌクレアー  
 ゼ。

【請求項2】 前記修飾リボヌクレアーゼがヒト臍臓リボヌクレアーゼに由来する、  
 請求項1に記載のリボヌクレアーゼ。

【請求項3】 前記修飾リボヌクレアーゼが、天然配列の部位88におけるアミノ酸  
 についての置換を有し、該部位にシステインが挿入されている、請求項2に記載のリボヌ  
 クレアーゼ。

【請求項4】 前記立体障害部分が葉酸誘導体である、請求項1に記載のリボヌクレ  
 アーゼ。

【請求項5】 前記立体障害部分がバムフォレートである、請求項4に記載のリボヌ  
 クレアーゼ。

【請求項6】 R N a s e Aスーパーファミリーの修飾リボヌクレアーゼであって、

前記修飾リボヌクレアーゼは人間による修飾により改変されており、

前記修飾リボヌクレアーゼは、その構造中に、対応の野生型リボヌクレアーゼと比較し  
 ての改変を有し、

前記改変は該タンパク質への立体障害部分の追加であり、

該立体障害部分はRNase Aのアミノ酸85～94に対応する位置のアミノ酸に共有結合的に結合しており、

該立体障害部分はリボヌクレアーゼインヒビターへの結合を妨げるが、リボ核酸分解活性には干渉しない十分な大きさであることを特徴とするリボヌクレアーゼ。

【請求項7】 前記修飾リボヌクレアーゼがヒト膵臓リボヌクレアーゼである、請求項6に記載のリボヌクレアーゼ。

【請求項8】 前記リボヌクレアーゼが、アミノ酸部位88におけるシステイン残基の置換により天然アミノ酸配列から修飾されている、請求項7に記載のリボヌクレアーゼ。

【請求項9】 前記立体障害部分が葉酸誘導体である、請求項6に記載のリボヌクレアーゼ。

【請求項10】 前記立体障害部分がバムフォレートである、請求項9に記載のリボヌクレアーゼ。